

"acsmgr_icsr_frwk_instance_chkpt_falied()" ; のプロセス高使用率のトラブルシューティング

内容

- [概要](#)
- [問題の説明](#)
- [分析](#)
- [解決方法](#)
- [手順](#)

概要

このドキュメントでは、高負荷のためにWARN状態になるsessmgrインスタンスのソリューションについて説明します acsmgr_icsr_frwk_instance_chkpt_falied() プロセスの使用状況。

問題の説明

プラットフォームASR5500

ソフトウェアバージョン : 21.27.4および21.19.10

セッションマネージャインスタンスがメモリ使用量が多いため警告状態です。

acsmgr_icsr_frwk_instance_chkpt_falied() セッション・リカバリが無効な場合の機能 :

```
[local]ASR5500# show task resources | grep -v good
```

cpu	facility	task			cputime		memory		files		sessions		S	status
		inst	used	allc	used	alloc	used	allc	used	allc	used	allc		
1/0	sessmgr	13	26%	100%	930.8M	900.0M	37	500	4643	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	36	32%	100%	938.8M	900.0M	39	500	5155	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	53	29%	100%	937.8M	900.0M	40	500	4916	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	56	29%	100%	930.2M	900.0M	41	500	4649	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	83	35%	100%	970.2M	900.0M	40	500	5382	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	90	24%	100%	931.3M	900.0M	42	500	4621	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	130	28%	100%	935.0M	900.0M	40	500	4907	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	141	26%	100%	936.7M	900.0M	37	500	4917	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	145	23%	100%	933.9M	900.0M	39	500	4883	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	174	26%	100%	927.4M	900.0M	37	500	4620	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	188	31%	100%	963.0M	900.0M	40	500	5305	12000	I		warn	
1/0	sessmgr	223	26%	100%	933.5M	900.0M	38	500	4631	12000	I		warn	

Aggregate consumption per proc:

Nr	Process	Similar	Total Bytes	Human Bytes	Percc
1	acsmgr_icsr_frwk_instance_chkpt_falied()	757	108301860	103.3 MB	13.

2	egtpc_allocate_peer_rec()		89	77599472	74.0 MB	10.
3	sn_slist_dnode_alloc()		471	64427392	61.4 MB	8.
4	sessmgr_allocate_calldata()		156	48601944	46.4 MB	6.
5	sn_aaa_buffer_alloc_more_type()		45	34836120	33.2 MB	4.

```
[local]ASR5500# show task resources | grep -v good
Session Recovery Status:
Overall Status : Not Enabled
Last Status Update : 8 seconds ago
```

分析

大量のサブスクリバがプロセスをトリガーするかどうかを分離するため

acsmgr_icsr_frwk_instance_chkpt_falied() 過剰に使用するには、sessmgrインスタンスのビジーアウトを実行し、sessmgrメモリ使用率が低下していないことを確認します。

```
[local]ASR5500> show task resources facility sessmgr instance 10
      task  cputime      memory      files      sessions
cpu facility  inst  used  allc   used  alloc  used  allc  used  allc  S  status
-----
8/0 sessmgr   10   20%  100% 981.8M 900.0M   43  500  4142 12000 I  warn
Total        1   20.20%  981.8M           43           4142
```

```
[local]ASR5500> task sessmgr instance 10 busy-out
[local]ASR5500> show task resources facility sessmgr instance 10
      task  cputime      memory      files      sessions
cpu facility  inst  used  allc   used  alloc  used  allc  used  allc  S  status
-----
8/0 sessmgr   10   19%  100% 979.7M 900.0M   42  500  3946 12000 B  warn
Total        1   19.35%  979.7M           42           3946
```

```
[local]ASR5500> task sessmgr instance 10 enable
[local]ASR5500> show task resources facility sessmgr instance 10
      task  cputime      memory      files      sessions
cpu facility  inst  used  allc   used  alloc  used  allc  used  allc  S  status
-----
8/0 sessmgr   10   17%  100% 979.8M 900.0M   40  500  4141 12000 I  warn
Total        1   17.33%  979.8M           40           4141
```

ログから、影響を受けるsessmgrインスタンスの1つでビジーアウトが実行されると、使用されるセッションの数は減少しますが、使用されるメモリの割り当ては依然として高いままであり、sessmgrインスタンスがWARN状態になる原因となることが示されます。

詳しく調査すると - acsmgr_icsr_frwk_instance_chkpt_falied()関数は、チェックポイント情報が処理されている間に呼び出されます。この関数にはリストの追加/更新/削除操作がありますが、セッションの回復が無効になっている場合は期待どおりに動作せず、これがメモリ消費が増加する理由です。ここで使用されるメモリは、このシナリオでは時間の経過とともに蓄積されます。この動作は、require session recovery 設定されていません。処理する累積メモリ acsmgr_icsr_frwk_instance_chkpt_falied() が空き領域を増やしても、require session recoveryを参照してください。

解決方法

この問題を解決するには、セッションリカバリを実装します。

手順

ステップ 1： EXECモードのプロンプトで、システムのセッションおよび機能使用ライセンスを使用して、セッション回復機能が有効になっていることを確認します。 `show license info` コマンドを使用して、アップグレードを実行します。セッション復旧機能の現在のステータスがDisabledの場合は、ライセンスキーがシステムにインストールされるまで、この機能を有効にできません。

ステップ 2： 次の設定例を使用して、セッションリカバリを有効にします。

```
configure
require session recovery
end
```

この機能は、システムを再起動するまで有効になりません。

ステップ 3： 「[設定の確認と保存](#)」の説明に従って、設定を保存します。

ステップ 4： 次のコマンドを使用して、システムの再起動を実行します。 `reload` コマンドを使用して、アップグレードを実行します。次のプロンプトが表示されます。

```
Are you sure? [Yes|No]:
```

システムの再起動を確認し、次のように入力します。 `Yes`を参照。

システムを再起動すると、セッション・リカバリが有効になり、ミラー化されたすべての「スタンバイ・モード」タスクの作成、パケット処理カードの予約の実行、およびその他の操作が自動的に行われます。

ステップ 5： システムの再起動後、「[セッションのリカバリ・ステータスの表示](#)」の説明に従って、システムがこの機能をサポートする準備ができていることを確認する必要があります。上級ユーザであれば、`require session recovery` コマンドの構文をテキストエディタなどの方法で既存の設定ファイルに書き込み、設定ファイルを手動で適用します。このコマンドを既存のコンフィギュレーションファイルの最初の数行に配置する場合は、十分に注意してください。ローカル以外のコンテキストを作成する前にコマンドを表示する必要があります。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。